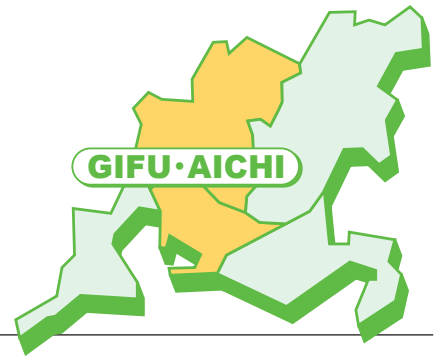


# 中部 だより



中経連事務局員が、担当するエリアでお聴きした、各県の最新トピックや地域特有の情報を紹介するコーナーです。

## JAPAN No.1毛織物産地「尾州」。復活への挑戦!

### 1. 尾州の毛織物について

木曾川流域の豊かな自然環境に恵まれた尾州(岐阜県羽島市周辺および愛知県尾張西部)地域は、奈良時代より繊維産業で栄えてきた。明治以降、綿に替わってウール(羊毛)を使った織物を全国に先駆けて取り入れ、その生産量は全国の約7割を占め、日本一の産地となっている。

尾州の毛織物の強みは、糸から織物になるまでに関わる全ての事業者(紡績・撚糸・製織・染色整理)が地域内に存在し、それぞれに高い技術力



シヨンヘル織機による作業の様子

が培われていることにある。また、現在主流の高速織機と比較すると1/5程度の低速で織り上げる「シヨンヘル織機」を使い、ウールを優しくゆっくと織り進めることで、しなやかな質感と風合いのある生地を生産している。さらに、「多品種・小ロット」の生産を行い、クライアントの細かなニーズに対応しているのも強みだ。

### 2. 産地の抱える課題

1990年代初頭のバブル経済崩壊以降、生地を卸していた商社や問屋は、安価に大量仕入れができる中国へ拠点を移しはじめた。その結果、販路・流通の一切を商社や問屋に頼っていた尾州の事業者は、徐々に仕事を失うこととなった。

尾州に位置する愛知県一宮市において、1963年から2016年にかけて、事業者数は約9割、出荷額は約7割減少した。また、尾州の毛織物を支える職人の高齢化が進み、後継者不足が課題となっている。

一宮市における事業者数・出荷額の推移

	1963年	2016年
事業者数(社)	約2,600	約260
出荷額(億円)	約2,600	約830

出所:一宮市の工業・経済センサス

しかし、尾州ではこのような状況を看過してきたわけではない。域内にある拠点を中心に「販路・流通の見直し」「人材の育成」に加え、「尾州をファッションの発信拠点」とする意欲的な取り組みが進められてきた。

### 3. 販路・流通の見直し

#### (1) 海外での取り組み

一宮市にある一宮地場産業ファッションデザインセンター(FDC)では、ファッション産業が集積する欧州に対して新規販路の開拓に向けた取り組みを進めている。2015年からイタリアで開催されている世界最大級の高付加価値テキスタイル見本市「Milano Unica」に地元企業とチームを組んで出展をしている。商談の指標となるサンプルリクエスト数は毎回1,000近くあり、その中から成約につながる案件も毎年生まれている。



イタリアでの商談の様子

#### (2) 国内での取り組み



尾州産地を表すブランドマーク

欧米の有名ブランドにも採用される尾州の毛織物だが、流通過程を経て消費者の手に届く時には製品を成す一つの「素材」でしかなかった。このような状況を打開し、消費者から選ばれる素材となるた

めに、産地をブランド化すべく「尾州マーク」を販売される製品に商品タグとしてつける取り組みが行われている。

認証には、織布・編立および加工の2工程を尾州で行うことを条件としている。2018年度には交付された商標タグが約24万枚(2016年度約2万枚)を超え、尾州の毛織物の品質が認知されると、消費者に選ばれるブランド素材として、大手百貨店やアパレル業界からの使用承認を求める申請が増加している。

#### 4. 人材の育成

FDCでは、若者が織物の知識や技術を具体的に学ぶ機会となる「尾州インパナ塾」を開講し、若者の定着を目指している。インパナとは、イタリア語の繊維業界における多様な関係者と携わりながら新製品の共同開発を導き出すコーディネーターを意味するインパナトールをもとにしている。尾州で長年培われてきた技術や設備を後世に引き継ぐため、より専門的な知識と技術の継承を通じた後継者の育成に取り組んでいる。



服飾専門学生と地元企業の交流

また、アパレル製品の開発にあたり必要な企画力を育てるために、「翔工房」と呼ばれる学生向けのプログラムを展開している。この取り組みは、学生がイメージして作成したデザイン画をもとに、地元企業と連携して生地づくりから製品化までを行っている。FDCでは、これらの取り組みを通じて尾州産地に関わる人材の育成に取り組んでいる。

#### 5. 尾州をファッションの発信拠点へ

岐阜県羽島市にある岐阜テキスタイルマテリアルセンター(TMC)では、10万点以上の生地の素材サンプルが常時展示され、毎年3,000点以上もの最新素材を全国から集めている。

通常、新しい生地をつくるためには、全国の産地や展示会を巡りながら、イメージする生地の質感

や風合に近い素材探しからはじめるため、時間とコストがかかる。しかし、TMCを利用すれば、全国の素材サンプルが揃っているのも、商品開発の効率化を図ることができる。そのため、全国からテキスタイルメーカーやアパレルメーカーなどが商品開発のために足を運んでくる。また、生地づくりの相談から事



サンプルは実際に見て触れて、素材の特性を知ることができる

業者の紹介まで行っており、新たなファッションの発信拠点としての役割も担っている。最近では服飾系だけに留まらず、カーシートといった自動車関連など他業種の開発担当者も訪れている。

TMCでは、このような利点を活用し、服飾専門学校や大学に向けたデザイナー育成プログラムを展開している。学生は自分で考えたデザイン画をもとに、職人と生地づくりから携わることができ、デザイナーとしての素質を培うことができる。TMCで学んだ若手デザイナーも誕生しており、取り組みの成果が出はじめている。

#### 6. 最後に

尾州らしさとは、分業により培われた高い技術力ときめ細かさで、多種多様な生地を器用に生み出すところにある。このようなものづくりに対する姿勢は日本人の特質であり、海外で簡単に真似できるものではない。ものが溢れる現代において、世界に対して差別化を図っていくためには、このような尾州らしさを「ストーリー」としてアパレルや小売に関わる人、そして消費者に伝えていくことが重要と考えられる。なぜなら、人がものを選択する理由の一つとして、ものの価値観や世界観は重要な位置づけになっているからだ。今回紹介した施設を通じて、尾州の歴史や技術力を現場と連携して情報発信することで、尾州のストーリーがさらに広く認知されていくことを期待したい。

文：岐阜担当 山田 昶士

取材協力・写真提供：一宮地場産業ファッションデザインセンター  
岐阜テキスタイルマテリアルセンター